

# 町村週報

(町村の購読料は会費)  
の中に含まれております)

## 3318号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<https://www.zck.or.jp/>



春の訪れを告げるニシンの「群来」(北海道苫前町)

### も く じ

随 情	フ	政
想 報	ォ	策
自然とともに歩む大台町の未来………	ー	生涯現役地域づくり環境整備事業について
………	ラ	厚生労働省 職業安定局高齢者雇用対策課………
………	ム	ふるさとと自らの未来を切り拓くことのできるこどもの育成Ⅱ鹿児島県喜界町………
………	町	町村ご当地キャラじまん………
………	村	………
………	ご	………
………	当	………
………	地	………
………	キ	………
………	ャ	………
………	ラ	………
………	ジ	………
………	ャ	………
………	マ	………
………	ン	………
………	ン	………
………	三	………
………	重	………
………	県	………
………	大	………
………	台	………
………	町	………
………	長	………
………	大	………
………	森	………
………	正	………
………	信	………
………	………	………
………	(12)	………
………	(11)	………
………	(6)	………
………	(2)	………

### コラム

## 地域に広場を創ろう

持続可能な地域社会総合研究所 所長

藤 山 浩

国内外の大都市や農山村を歩いてみて、日本の地域社会に一番欠けているなと感じるのは、広場です。

場を創っていくことが地域社会にとって大切になってくると考えています。その理由は3つあります。

例えば、15年くらい前に農山村を旅したイタリアでは、どんな小さな村でも中心部に広場があり、地域内外をつなぐ交流拠点となっていました。そこにはカフェやレストランがあり、朝に昼に夕に人々が出会い語り合う、楽しい時間と空間が生まれています。まさに、家と職場に加えて、暮らして厚みと潤いを与える第三の場所Ⅱ「サードプレイス」となっているのです。

第一に、都市でも農山村でも家族の人数が極端に縮小し、従来の家族の機能を補完する共同の仕組みが必要となって来ているからです。つまり、例えば一人暮らしが増える中で、家族単位での食事やケア、子育て等に無理が生じており、地域内で協力する場が求められているのです。

30年ほど前に1年間ほど暮らしたニュージーランドでも、都市の街角や村の真ん中に必ずパブがあり、住民にとっても旅人にとっても貴重な憩いの場となっていました。ニュージーランドは、日本に比べると人口密度が20分の1しかない国です。しかし、パブのような多彩な人々が自然に集う広場的な空間を創ることで、人口がまばらでも人間関係は広がっていている状態を作り出しています。

第二は、人間は元来社会的動物であり、最近のような孤立や分断が広がる社会状況では不幸を感じる人々が増えているからです。多様な存在をありのままに受け入れ、自発的かつ多角形のつながりを醸成する柔らかな広場のような空間が望まれます。

私は、これからの時代、日本においても広

第三は、これから必ず循環型社会へと進化していく中で、身近な日常的な生活圏の中心に、交通や物流、エネルギー等の複合的な循環拠点が不可欠となるからです。これからの地域づくりの基軸に、広場の創出を置きたいものです。

### 写真キャプション

ニシンが産卵のために浜に押し寄せ、まるで牛乳をまいたかのように海を白く染める「群来」。昭和30年代にニシンが姿を消し、長い間みられていなかったが、近年、道内各地で確認されるようになってきている。別名「春告魚」と呼ばれるニシンが群来る光景は、北海道に春の訪れを知らせる風物詩である。

# 生涯現役地域づくり 環境整備事業について

## 厚生労働省 職業安定局高齢者雇用対策課

1 「生涯現役地域づくり」環境整備事業 JUSUN

令和3年4月施行の改正高齢法により、65歳までの雇用確保措置の義務を上回る70歳までの「就業確保措置」が努力義務となるなど、人生100年時代を迎える中、働く意欲がある高齢者が年齢にかかわらずその能力を發揮し活躍できる生涯現役社会の実現に向け、環境整備を図る必要があります。厚生労働省では、企業における安定した雇用・就業の確保、中高年齢者の再就職支援や、地域における多様な雇用・就業機会の確保を図る取組を推進しています。

その取組の一環として、就業機会を創出し、多様な働く場を整備していく取組を促進するため、地域における高齢者等の雇用・就業支援の取組を持続可能にするモデルを構築し、広く他の地域への展開・普及を図ることを目的とした「生涯現役地域づくり環境整備事業」を、国の委託事業として令和4年度から実施しています。

この事業は、地方自治体の規模を問わず、地域の多様な実情に応じ、課題を解決するための事業構想を地域自らが策定し国に提案、特に事業効果が高いと評価されるものをコンテスト方式

### 生涯現役地域づくり環境整備事業の概要

令和7年度予算額 437,122千円

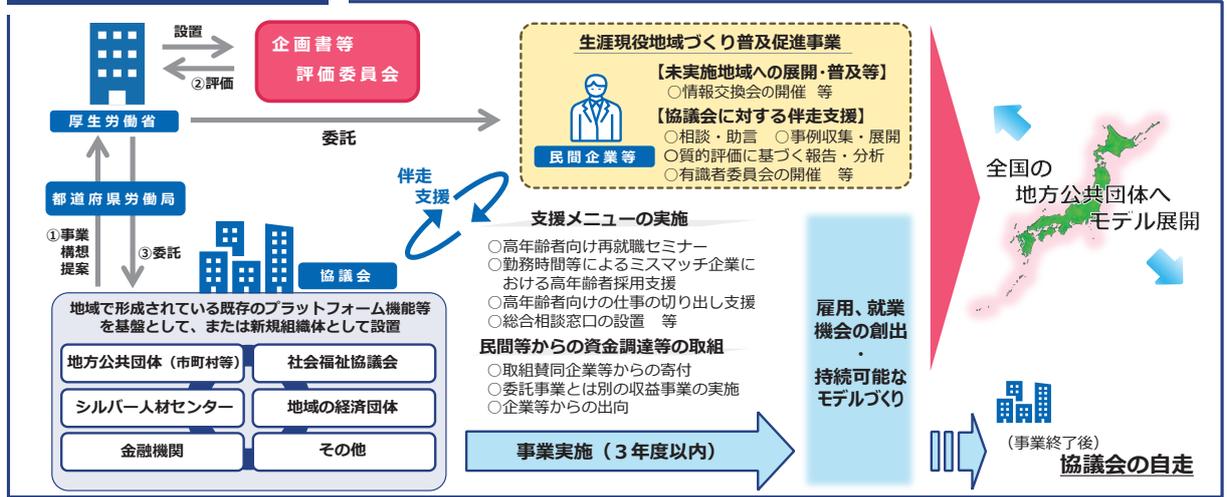
#### 1 事業の目的

地域のニーズを踏まえた高齢者の多様な雇用・就業機会を創出すると共に、地域における高齢者等の雇用・就業支援の取組を持続可能にするモデルを構築し、他地域への展開・普及を図ることを支援する。

#### 2 事業の概要

- 地域の課題・実情を解決するための事業構想を協議会自らが策定
- 提案された事業構想の中から、特に事業効果が高いと評価されるものをコンテスト方式で選抜
- 【実施期間】3年度以内 【実施規模】各年度1,750万円（2年度目以降は実績加算金を含む）
- 【実施主体】高齢者雇用安定法第35条第1項に規定する協議会
- 【支援対象】55歳以上の高齢者、地域内企業等【実施中箇所数】6協議会（R7.4現在）
- 併せて、協議会へ伴走型支援を行うとともに、取組や成果を他地域に波及させるため、「生涯現役地域づくり普及促進事業」を実施

#### 3 事業のスキーム・実施主体等

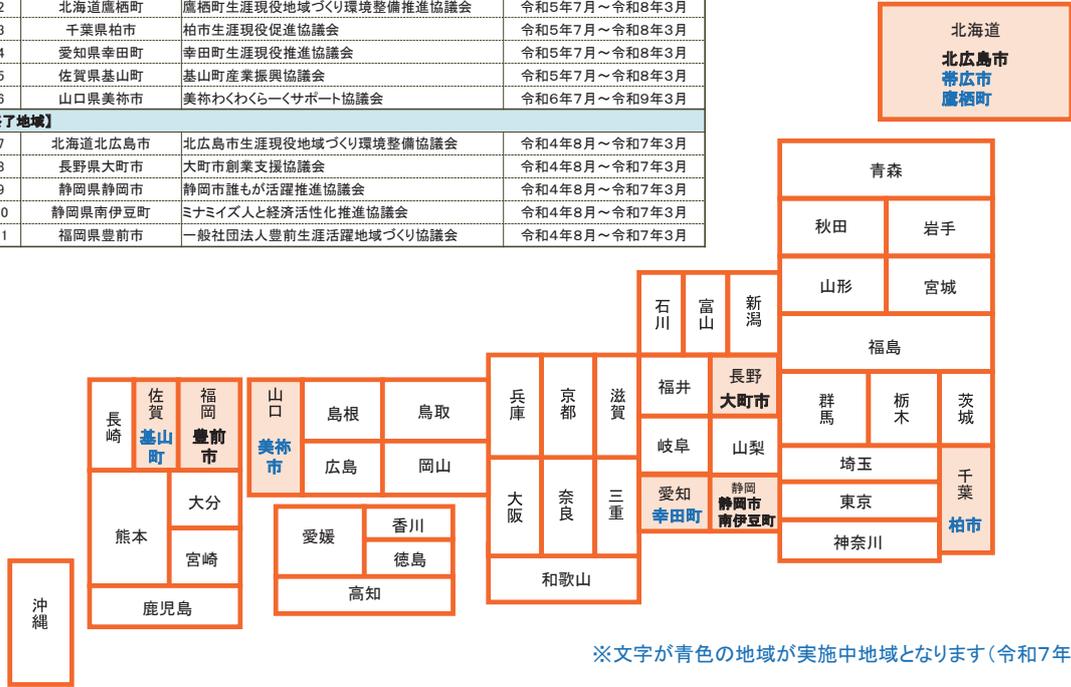


▲ 図1 生涯現役地域づくり環境整備事業概要

政 策

生涯現役地域づくり環境整備事業 実施地域一覧

事業対象地域及び実施団体			実施期間
<b>【事業実施中地域】</b>			
1	北海道帯広市	帯広地域雇用創出促進協議会	令和5年7月～令和8年3月
2	北海道鷹栖町	鷹栖町生涯現役地域づくり環境整備推進協議会	令和5年7月～令和8年3月
3	千葉県柏市	柏市生涯現役促進協議会	令和5年7月～令和8年3月
4	愛知県幸田町	幸田町生涯現役推進協議会	令和5年7月～令和8年3月
5	佐賀県基山町	基山町産業振興協議会	令和5年7月～令和8年3月
6	山口県美祿市	美祿わくわくらくサポート協議会	令和6年7月～令和9年3月
<b>【事業終了地域】</b>			
7	北海道北広島市	北広島市生涯現役地域づくり環境整備協議会	令和4年8月～令和7年3月
8	長野県大田市	大田市創業支援協議会	令和4年8月～令和7年3月
9	静岡県静岡市	静岡市誰もが活躍推進協議会	令和4年8月～令和7年3月
10	静岡県南伊豆町	みなみイズ人と経済活性化推進協議会	令和4年8月～令和7年3月
11	福岡県豊前市	一般社団法人豊前生涯活躍地域づくり協議会	令和4年8月～令和7年3月



※文字が青色の地域が実施中地域となります（令和7年4月時点）。

▲図2 生涯現役地域づくり環境整備事業実施地域一覧

で決定し、3年度間にわたって取り組んでいただくものです。

事業運営の主体は、地域福祉や地方創生等において地域で既に機能しているプラットフォームに、就労支援の機能を付加した協議会としており、その仕組みの実証等を理想としています。が、本事業実施のために新規に立ち上げる組織（協議会）でも取り組んでいただけます（図1参照）。

図1の事業概要図にも記載しているとおり、協議会の構成員は、自治体を中心とした合議体とし、地域の商工経済団体、社会福祉協議会、シルバー人材センター、金融機関等、地域の活性化や人材確保等に取り組む関係機関を想定しており、地域の実情に応じ、重点的に取り組む分野の関連団体が参画することを推奨します。

また、1つの自治体内の実施でも、複数自治体、あるいは都道府県単位でも実施いただくことができます。

加えて、高齢者の多様なニーズに応えるとともに、地域福祉や地方創生等の分野の取組と円滑に連携できることが重要であることを踏まえ、本事業による支援の対象を、地域内の事業主や、55歳以上の高齢者を含むことは必須としつつ、地域内の若年層、子育て世代の方等、高齢者以外の幅広い

層も対象とすることができます。

具体的な取組の内容として、高齢者等の支援対象者に向けては、地域の多様な情報提供、関係機関・関連事業の紹介、職業生活設計に関するセミナーの開催等、事業主に向けては、高齢者等が活躍できる環境を整えるための高齢者向けの仕事の切り出し支援や、各種支援制度の紹介、地域内住民とのマッチングの場の設定（企業説明会等）等を想定しています。また、その他の取組として、地域内住民の雇用・就業に係るニーズ調査や分析、各種情報を提供しつつ地域住民のさまざまな相談に対応するワンストップ窓口の運営等を実施している協議会もございます。

これらの取組を計画するにあたっては、地域における課題がさまざまであることから、まずは課題を把握いただき、特に重点的に取り組みたい分野を設定し、当該重点分野を中心に各種支援メニューを企画のうえ、ご提案いただけます。

また、本事業では、委託期間終了後も地域において同様の取組を継続していただくことを念頭に、ノウハウの蓄積だけでなく事業運営のための資金調達等の取組も重視しています。

資金調達の一例としては、協議会の

政 策

取組に賛同される企業等からの寄付や協賛金、本事業とは別の収益事業の実施等、委託事業期間中に試行いただくことが可能です。

令和7年4月現在の実施地域は6地域、これまで11の地域において事業に取り組んできました（図2参照）。

続いて、実際に事業に取り組んだ地域を一部ご紹介します。

2 「生涯活躍のまち」の取組  
静岡県南伊豆町 ミナミイ  
ズ人と経済活性化推進協  
会の取組

環境整備事業創設の令和4年度から令和6年度まで、本事業に取り組んだ静岡県南伊豆町は、町全体で生涯活躍のまちづくりに取り組んでいます。「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」をコンセプトに、町内全域で既存資源を活用しながら各種事業を推進しています。その中で、本事業を活用し、誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくりとして、「活躍・しごと」の部分で高齢者を中心とした就労環境整備と、地域課題のひとつでもある人口減と担い手不足解消につながる取組を展開してきました。

まずは、地域住民が生涯現役で活躍し続けるための普及啓発事業や、社会



▲しごと体験

に出て活躍するために必要な能力向上を図るためのセミナー等を実施し、地域の高齢者等の意識を変えていくことを試みました。同時に町内の事業者に対しては、地域産業の活性化に向けた働き手の確保のため、マッチングや仕事のコーディネートについて働きかけを行ってきました。

また、人口減少が進む南伊豆町では、移住支援にも取り組んでいることから、移住施策との連携により、町外からの移住希望者のための仕事情報の整備のほか、活力ある南伊豆町であり続けるための戦略会議を開き、地域内企



▲地域戦略会議

業や関係機関を参集し、人材獲得のための意見交換、アイデア募集等を行っています。続いて、これらの取組をさらに効果的なものとし、地域の方々へ、協議会としての価値を提供するため「まちの人事部」を始めました。その仕組みと役割は、

- ・ 仕事と人をつなげる(マッチング・プラットフォーム)
- ・ 人事部がお手伝い(人材バンク・人材派遣)

・ みんながかかわります(手仕事請負・小商い)  
となっており、オフィス、お店、畑と



▲しごと、外出、居場所づくりの場「G-BAR 食堂」



あらゆる場所での採用や地域活動につながるお手伝いをしています。本事業を実施し、まちの人事部の認知度が高まったことで、新たな利用者が増え、社会的にかかわりを持つ高齢者の増加にもつながり、地域の方々に喜ばれています。そのほか、担い手の育成として、しごと体験の実施や、しごと、居場所づくり・起業セミナーや、居場所その他の提供等を実施しています。本事業による南伊豆町での取組は終

政 策

了しましたが、今後も地域の活性化や住民の活躍のため、本事業で培ったノウハウをぜひ活かしていただけることを期待します。

3 各協議会の取組や情報交換

本事業を実施する各協議会での取組の好事例紹介や、協議会間の情報交換の場として、年に1回「情報交換会」を開催しています。本事業の実施中協議会は対面参加、事業に興味をお持ちの地域はオンライン参加をいただきます。ハイブリッド形式で開催しています。本事業の実施地域は11とまだ少ないので



▲セミナーの様子

ですが、他の地域にどのような課題がありどういった取組を行っているか、また、その成果がどのようなものであるか等、具体的に情報を得る機会でもあります。令和7年度においても11月に開催予定としていますので、本事業に興味をお持ちの自治体におかれては、ぜひご参加ください。

なお、令和5年度、6年度の情報交換会の様子は、厚生労働省のWebサ

イトにてご覧いただけます。特に協議会による事例紹介と、有識者の基調講演を参考にさせていただきますと幸いです。

その他、本事業に関するご質問等ございましたら、左記担当または管轄の都道府県労働局までお問い合わせください。

厚生労働省Webサイト

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_29812.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29812.html)



【お問い合わせ先】

生涯現役地域づくり環境整備事業  
相談窓口

厚生労働省職業安定局高齢者雇用  
対策課

生涯現役地域づくり環境整備事業  
相談窓口

メールアドレス

[koutaikaitaku@mhlw.go.jp](mailto:koutaikaitaku@mhlw.go.jp)

● 休刊のお知らせ ●

5月5日付、5月12日付の町村週報につきましては、休刊とさせていただきます。

第3319号は5月19日付の発行となりますので、ご了承の程、よろしく願います。

車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

● お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください ●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内  
●ホームページアドレス <https://www.chisato-ag.co.jp/>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間：祝日、年末年始を除く月～金 午前9時30分～午後5時)

TEL 0120-731-087 FAX 03-3519-7325

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン株式会社とが集団契約を締結し、実施しているものです。
- 集団契約としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。このご案内は概要を説明したものです。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉損害保険ジャパン株式会社

[SJ23-05507(2023.8.1作成)]



サンゴでできた喜びの島

# 喜界島

Kikai Island, Japan

▲太平洋とサトウキビ畑を眼下に望む

喜界島は鹿児島県奄美群島の東北端、北緯28度20分、東経130度00分の地点にあり、鹿児島港から約368km、沖縄那覇港から約322km、奄美大島から最短距離で約24kmの洋上にある島です。総面積は56・82km<sup>2</sup>で周囲は約50kmあり、年平均22・4℃と年間を通して温暖な気候です。また、現在の喜界島は1島1町で、人口は令和6年4月1日時点で6,314人です。

喜界島は世界でも屈指の隆起速度を誇り、約10万年前に海面下で形成されたサンゴ礁が現在は200mの高さに位置しています。島の周囲には豊かなサンゴ礁が発達しており、喜界島は令和6年8月に韓国釜山で開催された国際地質学会（IGC2024）におい

## 1. サンゴでできた喜びの島

ふるさとと自らの未来を切り拓く  
ことのできることももの育成

鹿児島県  
喜界町  
きかいちょう



▲世界的にも貴重な地質地形

て国内4力所目となる世界地質遺産second100選に選ばれ、世界的にも貴重な地質地形を有した島であることが認められました。喜界町では、この貴重な地質地形を活かし、平成30年が



フォーラム

ら日本シオパーク認定に向けて準備を始め、令和3年に本格的な申請に向けた取組を開始し、現在に至っています。

2. 喜界町の教育行政

平成24年度、喜界町は喜界町学校再編計画に基づいて町内の9小学校及び3中学校を統合し、喜界小学校（児童数245人）・早町小学校（同61人）・喜界中学校（生徒数161人）を開校しました（人数は令和6年4月1日時点）。

喜界町教育委員会では、町長が提唱する「島で育むきらりと輝く人づくり」を基本理念としています。学教教育においては「夢や志をもち、可能性に挑戦するグローバル人材の育成」という合言葉のもと、各事業を行っています。確かな学力の定着や特別支援教育の推進はもちろん、近年はキャリア教育の推進に力を入れてきました。

3. 喜界町版キャリア教育

我が国で「キャリア教育」という言葉が公的に用いられたのは、平成11年の中央教育審議会までさかのぼります。キャリアとは「人が生涯の中でさまざまな役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していくこと」と捉えることができます。例えば、中学生は親から見ると

こともであり、同時に中学校に通う生徒でもあります。やがて成長すれば社会人になります。私たちは、さまざまな役割を通して他者や社会と関わることになり、その関わり方の違いが「自分らしい生き方」すなわちキャリアになっていくと考えることができます。近年、グローバル化や科学技術の革新によって社会構造が大きく変化しています。また、喜界町では多くのこともたちは中学校や高校卒業後に島外へ進学・就職をするという状況があります。このような社会背景や地域の現状を踏まえると、こどもたちが激しい環境の変化に流されることなく、それぞれが直面する課題に対して柔軟かつたくましく対応しながら社会人として自立していくことができるような教育が



▲サトウキビの収穫体験（喜界小学校）

求められているといえます。そこで、喜界町ではキャリア教育が導入された背景やキャリア教育の定義、また地域の実態を踏まえたうえで町内の小・中学校、高等学校と連携を図りながら、喜界町の特色を生かしたキャリア教育の在り方について模索してきました。具体的には次の2点を喜界町キャリア教育の方向性としてしました。

- ・喜界町の特性を生かした体験活動による郷土愛の涵養
- ・学年や校種を超えたこども同士の交流によるウェルビーイングの向上

令和3・4年度、小・中学校の9年間を見通したキャリア教育の在り方について研究・実践を行い、大島地区指定研究協力校として公開研究会を実施



▲シュノーケリング体験（早町小学校）



▲サンゴの石垣を修復する体験（喜界中学校）

4. 学年や校種を超えたこどもの交流「やる気塾」

「キャリア教育の視点をもとにした教育課程の見直し」があります。この取組は、サトウキビや白ゴマ、隆起サンゴ礁等、喜界島の産業的・地理的特性を教育課程に反復的・螺旋的に位置付けることで、こどもの郷土愛を涵養する各学校の教育活動・実践です。

喜界町教育委員会では、平成17年度から「やる気塾」という名称の学習会を実施してきました。「やる気塾」は、こどもたちが家庭学習を習慣化することや主体的に学習に取り組む態度を育成することを目的として、毎月第3土曜日を中心に行っており、今年でちよ

フォーラム

うど20年になります。参加者は小・中学生で、教員もボランティアとして参加することがあります。基本的には、ごども一人一人が家庭学習に取り組みだり、必要に応じて発展的な学習課題に挑戦したりといった活動に取り組みます。

このような活動を行ううちに、ごどもたちの取り組み方にある変化が起きました。それは、ごどもたち同士で互いに教え合う姿が見られるようになってきたことです。ごどもがボランティアの教員へ質問する場面は従来からありましたが、友達同士で教え合う姿から、ごどもの「理解したい」という思いだけでなく、「伝えたい」という意欲も感じられました。そこで、令



小・中学生、高校生や教員が集う「やる気塾」

和5年度からキャリア教育の視点で「やる気塾」の活動を見直すことになりました。具体的には高校生にも参加対象を広げることにして、学年や校種を超えたごどもたちの交流が活性化するように設定しました。

以上のような経緯で、現在の「やる気塾」は年間を通して次の取組を行っています。

・小・中学生の同学年グループ編成による学び合い

・小・中学生の問題演習に対する高校生の添削・解説（個別指導）

このような学びの形態は、江戸時代中期から明治にかけて薩摩藩で行われていた「郷中（ごじゅう）教育」という教育システムを参考にしています。郷中というのは、今でいう町内会のような小さな組織です。郷中では、幼いごどもをはじめ、さまざまな年代の青少年が集まり、学年の枠を超えた異年齢集団が同じ学び舎で読み書きや剣術等を学んでいました。幕末維新期には西郷隆盛や大久保利通等の人材を輩出したことでも知られています。郷中教育では「年長者が年少者に教え、年少者は年長者から学ぶ」という学びが循環する仕組みの確立が期待されます。

このような仕組みを「やる気塾」に取り入れることで、知識の単なる伝達に留まらず、主体性や自立心、社会性を育むことができるのではないかと考えました。実際、このような試みを通し

て、参加者から「上学年の自覚をもってコミュニケーションをするようになった。」「質問した相手の期待に応えたくて伝え方を工夫するようになった。」等の感想が寄せられました。また、高校生からは「教職へ憧れを抱くようになった。」という声も聞かれ、ごどもの学習意欲の向上はもちろん、学校間の連携強化にもつながるのではないかと考えています。

5. 人生の先輩から生き方を学ぶ

ごどもたち一人一人が自己のキャリア形成について考えることができるようにするために、今年度は喜界島の地域人材を講師に迎えて講義をしてもらうという特別企画も実施しました。

令和6年11月には自衛隊喜界島通信所長を講師として、キャリア教育講座「喜界島と私の生きる道」を開催しました。講師は、自衛隊に入ったきっかけや全国各地で行ってきた任務等について画像やクイズを提示して楽しく紹介しました。また、入隊した理由を「人の役に立つことができる究極のボランティアをしたい」という思いがあったから」と説明したうえで、「自分で決めたいことから、つらいことやあきらめたいことがあっても続けることができたら」という熱い思いを語りました。さらに、ごどもたちに対して、やりたいことを決めるときには「①人のために

なっているか②人が喜んでるか③みんなが幸せになるか」の3つの条件を満たしているかを考えてほしいとメッセージを送りました。最後に、喜界島の唄者と三味線の演奏を披露し、講師自身が2年間を過ごした生活で感じた喜界島の伝統や文化の魅力も伝えました。

参加者の一人は、「自分のためだけでなく、人のためにも行動することが大切だと学びました。学校生活でも、あきらめずに挑戦したいです。また、所長さんが喜界島の文化を知るために三味線を練習して弾けるようになったことがすごいと思いました。」と感想を述べました。



自衛隊喜界島通信所長（右）と喜界島唄者の三味線演奏

フォーラム

6. 時代とともに進化する「やる気塾」

12月には、こどもたちが大人になつた頃の未来社会を想定した特別講座を実施しました。これは喜界島の酒造メーカーと連携した企画です。この酒造メーカーでは、他企業と共同でNFT（代替不可能なトークン）という技術を活用してウイスキーをはじめとした蒸留酒の樽をスマホアプリで売買・保有・管理するなど、世界でも注目され始めている技術を扱っています。この技術をこどもたちの日常生活・学校生活と関連付けて「やる気塾」で実施



▶高校生や教員のサポートを受けながら  
仮想世界で買い物体験

できないかと構想しました。そして実現したのが「生成AIで作成した自分や友達の絵を売買する体験をしよう」という企画です。この体験を現実の世界で例えると、個人が公園や広場等の会場で品物を売買するフリーマーケットの仕組みに似ています。「やる気塾」では、こどもたちが仮想世界（メタバース）にログインして互いに作成したデジタルアートを仮想通貨（暗号資産）で売買する体験活動を設定しました。この活動によって、生成AI・デジタル署名等の最新のデジタル技術や仮想世界における経済活動等、こどもたちが大人になった頃の未来社会の仕組みを模擬体験することができました。喜界町は近隣の地域との間を海で隔てられています。そのため、地理的な制約を受けずに他の地域と持続可能なコミュニティを形成する手段を身に付けることは非常に重要です。このような体験にヒントを得たこどもたちが今後のキャリア形成の過程や社会人になったとき、新たな産業やビジネスモデルを喜界島から発信し、主体的に社会に貢献できる人材となることを期待しています。

7. おわりに

個人の尊重や公共の精神等、教育には時代を超えて変わらない価値あるもの（不易）を後世に伝える役割があり

ます。一方、AI技術やSociety5.0のように、時代の変化に合わせて変えていく必要があるもの（流行）も存在します。これからの時代は、世の中の激しい変化を乗り越え、未来社会の創り手となる資質・能力を備えた人材の育成が重要になります。本町では、社会の変化を前向きに受け止め、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓くことができるような教育環境づくりに努めていきます。

鹿児島県喜界町

教育委員会総務課 古園 正樹



▶喜界島中里集落の伝統行事  
「ソーミンシガブー」

書籍紹介

にぎやかな過疎をつくる

農村再生の政策構想

小田切徳美著 農山漁村文化協会・刊

2,420円（税込）

我が国の人口減少プロセスの中で、農山漁村（以下、農村）はその先頭に立つことから、しばしば「消滅」や「撤退」という議論の対象となる地域である。他方で、農村での「地域づくり」と呼ばれる内発的発展の取組は、「人口減少下でも地域で幸せに住み続ける」ための活動という意義があり、農村の後の追い人口減少が進む都市部のモデルともされている。

本書では、そのような危機と再生の両面で我が国の地域を代表する現代の農村における問題を、「課題地域」「価値地域」「隔絶地域」という3つの課題の重層化であると捉え、その課題を乗り越えることが農村の持続的な発展の条件として、そのため何をするべきか、先行する地域の事例を交えながら明らかにしている。

都市部に人が集まって暮らすことが人口減少に対する適応策であるという「多極集住論」や「農村たみ論」に對抗し、「持続的低密度居住構想」の妥当性を複合的な視点から冷静に論じるとともに、「にぎやかな過疎」の実現を展望している。



## 地方公共団体金融機構

令和7年度 地方公共団体の経営・財務  
マネジメント強化事業を拡充しました！

地方公共団体が直面する課題の解決を図るために、総務省と地方公共団体金融機構の共同でアドバイザーを派遣する事業を実施しています。

活用は**無料**ですので、いつでもお気軽にご利用いただけます。

## 活用団体の声

ご利用いただいた団体からは、「**予算措置なしでアドバイスを受けられることはありがたい**」「**標準化 PMO への入力を予定より早いスケジュールで進めることができ、時間に制約がある標準化に向けた作業が大幅に進み助かった**」といった声をいただいています。それぞれのニーズに応じて、ぜひご利用ください。

## お知らせ

令和7年度は支援分野に「地方公共団体間の広域連携」を追加しました。3次募集からは「地方税務行政のDX等」の追加を予定しています！課税事務や徴収事務の効率化を検討の方、ぜひご利用ください！

## 1 事業概要

地方公共団体等の要請や状況に応じて、公認会計士、学識経験者等約800人の専門的アドバイザーがみなさまをサポートします。

## (1) 支援分野 ※◎は啓発・研修事業のみで実施

## アドバイザーを派遣する支援分野

- 公営企業・第三セクター等の経営改革に関すること  
・DX・GXの取組  
・経営戦略の改定・経営改善  
・公立病院経営強化プランの改定・経営強化の取組 等
- 公営企業会計の適用に関すること
- 地方公会計の整備・活用に関すること
- 公共施設等総合管理計画の見直し・実行に関すること(公共施設マネジメント)
- 地方公共団体のDXに関すること  
・情報システムの標準化 ・共通化・DXの機運醸成  
・外部デジタル人材の確保 ・消防防災DX 等
- 地方公共団体のGXに関すること  
・地域共生・地域裨益型再エネの立地  
・脱炭素型まちづくり 等
- 地方公共団体間の広域連携(追加)  
・公共施設の集約化等 ・専門人材の確保  
・事務の共同実施
- 首長・管理者向けトップセミナー

## (2) 支援の方法

## 市区町村・公営企業・都道府県に対して派遣

- 課題対応  
アドバイス  
事業  
市区町村・公営企業・都道府県が直面する課題に対して、当該課題の克服等、財政運営・経営の改善に向けたアドバイスを必要とする場合に団体の要請に応じて派遣
- 課題達成  
支援事業  
政策テーマの実施に当たり、知識・ノウハウが不足するために達成が困難な市区町村・公営企業・都道府県に、技術的・専門的な支援を行うために派遣

## 都道府県に対して派遣

- 啓発・  
研修事業  
都道府県が市区町村・公営企業の啓発のため、支援分野の研修を行う場合に派遣

- JFM ホームページにおいて、「実施の手引き」など、関係資料を掲載中！
- 活用事例も紹介しています。ぜひご確認ください。



※申請に際しては、本事業の Web システムをご利用いただけます。使い方等については、下記 Web サイトで公表しているマニュアルを参考にしてください。

▼ 地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業

経営・財務マネジメント強化事業

検索

<https://www.jfm.go.jp/support/development/keieizaimu.html>

## 2 申請期間 (2月末～12月末)

- 令和7年度も切れ目なく申請を受け付けます。
- 支援決定は4回(4月・7月・10月・1月)を予定しています。

※派遣日程等は、申請受付後でも変更可能です(活用が見込まれる場合には、計画ベースで申請を行っていただいて差し支えありません)。

支援決定前でも、申請内容について確認ができたものは、内示を行うことで、事業実施可能です。

## お問い合わせ先

☎ 地方支援部 支援企画課：03-3539-2676

✉ [chihoushien@jfm.go.jp](mailto:chihoushien@jfm.go.jp)



金融で地方財政を支え、地域の未来を拓く

地方公共団体金融機構  
Japan Finance Organization for Municipalities

# 町村

# ご当地キャラじまん

Vol.166

中ブロック

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。今回は、中ブロック(北信・東海・近畿)からピックアップ。



2013年9月生まれ。溫和だけど、熱いパッションの持ち主。特技は「うるのすけマーチ」を歌って踊ること。好物はうるのすけのお米。売木村のイベントに参加するのが大好き。



売木村マスコットキャラクター

うるのすけ

長野県売木村

2012年に村のイメージキャラクターを公募し、翌年全国からの応募作品708点の中から村民投票を行い、「うるのすけ」が誕生しました。モチーフとなっているのは、村鳥「コマドリ」です。かぶっている帽子は売木村の豊かな自然を表現していて、村の特産物である「よつもろこ」「トマト」「ミヨウガ」が載っているところがチャームポイント。2013年9月17日に開催された売木小中学校運動会にてお披露目され、その後、売木村の魅力がいっぱい詰まったテーマソング「うるのすけマーチ」や「走れ!うるのすけ」が発表されました。2023年には、「うるのすけ」生誕10年を記念して、方言も網羅したLINEスタンプを発売。売木村の知名度アップのために貢献しています。

山形村PRキャラクター

やまっち

長野県山形村



山形村の観光や特産品をPRする目的で、2010年に山形村観光協会がイメージキャラクターとその名前を公募しました。そして、応募総数334点の作品の中から選考委員会により選出されて誕生したのが、「やまっち」です。山形村文化遺産である「清水寺」の屋根をモチーフにした笠をかぶっていて、村花の「さつき」をあしらっています。体は村木の「いちい」をイメージしています。2011年8月15日に開催された「夏祭り山形じゃんすら」にて、着ぐるみが初お披露目されました。山形村や山形村観光協会が主催する大型イベントには参加し、村民や観光客との交流を楽しむ「やまっち」。これからも、愛くるしい笑顔で元気に、山形村の魅力発信やPR活動を続けていきます。



8月15日生まれ。山形村をこよなく愛する五穀豊穡の恩恵を受けた神様。とても下ジタけど、どんなことにも一生懸命な女の子。笠が重いのを走るのちょっぴり苦手。「やまっち」が大好き。

湯村温泉の源泉・荒湯の精霊なので、年齢・性別は不明。身長や体重は自由自在。温泉のようにホカホカ温かい心の持ち主。すすへて色白の肌とつづらな瞳がチャームポイント。温泉たまご作りが得意。ピンクのタオル収集がマイブーム。



新温泉町マスコットキャラクター

湯たん

兵庫県新温泉町



2010年1月に、旧温泉町商工会が国の補助事業を活用し、マスコットキャラクターを一般公募しました。県内外からの応募作品を対象に人気投票を行い、上位5点の中から採用作品を決定し、「湯たん」が誕生しました。モチーフとなっているのは、湯村温泉の名物「温泉たまご」。樽の中の温泉に浸かっている、頭の上には「ゆむら」と書かれたタオルを載せ、湯たんぽを持っています。冬になると、温泉の湯を入れた湯たんぽを寝ている人の布団にのぼせるなどして活躍しているのだとか。主に、湯村温泉のPRを行っています。ですが、時には「但馬牛」や「松葉がに」等の町特産品のPRを担うこともある「湯たん」。町内外のさまざまなイベントに参加し、また、時には海外にも出張し、新温泉町や湯村温泉の知名度アップのために活動しています。

今回は、西ブロック(中国・四国・九州・沖縄)からご紹介します

随 想

三重県のほぼ中央に位置する大台町は、総面積の約9割を森林が占め、清流宮川をはじめとする豊かな自然に恵まれた町です。町の南西部には、日本百名山の一つであり、国内有数の多雨地帯として知られる大台ヶ原がそびえ、雄大な山並みと深い森が広がっています。また、町の中央を流れる宮川は、国土交通省の「全国

なものの一つが「ユネスコエコパーク」の登録です。2016年に大台町を含む地域が登録拡張され、自然環境を守りながら地域の活性化をめざす取組が国内外で評価されました。ユネスコエコパークの理念に基づき、町では環境保全活動やエコツーリズムの推進を積極的に進めています。例えば、宮川の清流を活か

す。その一例が、地元産の「奥伊勢ゆず」を活用した特産品の開発です。大台町は柚子の栽培が盛んであり、その風味豊かな果実を使った加工品が多くの人々に親しまれています。地元企業や農家が連携し、ゆずを使ったポーションやスイーツ、さらには化粧品等、幅広い商品開発が進められています。これにより、新たな雇用が生まれ、地

ポートや、新規就農者への支援等、移住者が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。こうした努力が実を結び、移住者が地域の祭りや伝統行事に積極的に関わること、新たなコミュニティの活力が生まれています。



## 自然とともに歩む大台町の未来

三重県大台町長 **大森 正信**

一級河川の水質調査」で何度も日本一に輝いた清流であり、地域の誇りとも言える存在です。この恵まれた

した力又一体験や、豊かな森林資源を利用した環境学習プログラム等が実施され、訪れる人々に大台町の自

域経済の活性化につながることを期待されています。また、大台町では移住・定住の促進にも力を入れています。豊かな自然環境とゆったりとした暮らしを求

る町づくりを全力で推進していきたくて考えています。

川とともに生き、独自の文化と産業を育んできました。

一方で、人口減少や高齢化といった課題にも直面しています。しかし、こうした状況の中でも、地域の資源を活かした新たな取組が芽生えていま

進め、都市部から移住する人々が増え、町としても支援制度の充実を図っています。例えば、空き家バンクを活用した住まい探しのサ

は、豊かで持続可能な未来が広がっています。大台町の魅力を次世代へとつなぐために、これからも町民の皆さまとともに、一歩一歩確実に前進してまいります。

りに取り組んでいます。その象徴的

活かしながら、持続可能なまちづく

進んでまいります。

進んでまいります。